

看護部長就任の挨拶

地域の皆様から選ばれる「私らしく輝ける看護」を目指して

看護部長 上岡 由美子



令和4年4月1日に看護部長を拝命いたしました上岡 由美子（うえおか ゆみこ）です。

松山市民病院は1956（昭和31）年の開設以来、急性期医療、二次救急医療を中心に地域医療に貢献して参りました。

当看護部は、「思いやりの医療をもって地域医療に貢献する」という病院理念の下、「思いやりを持ち、心に寄り添える看護」をモットーに、看護の専門性を発揮し、入院から退院まで安心して過ごせる療養環境を提供することを大切にしています。

そのために、患者さんやご家族を第一に考える優しさ、専門職として自立した行動がとれる、豊かな人間性を身につけた人材の育成が必要と考えています。

同時に、地域の急性期医療、二次救急医療に貢献できる、ジェネラリスト・スペシャリストの育成にも取り組んで参ります。

医療を取り巻く環境は刻々と変化し、松山二次医療圏は急激に高齢化が進んでいます。地域包括ケアシステムの構築を含めた地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーションなどとの連携が大変重要です。「医療」と「生活」の視点を持ちながら、患者さんの人格・意思を尊重し「その人らしさ」を大切にしたいと考えています。

また、就労環境の改善にも積極的に取り組み、人材の定着・ワークエンゲージメントの実現とWLB（ワーク・ライフ・バランス）の推進に取り組んでいます。

「自分らしく輝ける看護を！」をキャッチフレーズに、2022年度はスタートします。

半世紀以上の伝統を受け継ぎ、更なる躍進を遂げるため、地域の皆様から選ばれ、職員から愛される病院であり続けるために努力する所存です。

今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ボランティア「白鷺」通信

医療社会活動室長 井上 より子

春休みを利用して、医療ソーシャルワーカー（MSW）を目指す大学生ボランティアさんが来てくれました

活動



窓飾りつけ



ガイド



活動中は、患者さんやご家族から「梅がきれい癒やされますね。」「ありがとう。助かります。」と声をかけていただきました。

院内オリエンテーション

NASVA（自動車事故対策機構）委託病床



担当医の山本理事長（写真上）と専任の看護師（右）が、NASVA委託病床の目的や特徴などをお話しました。



臨床工学室

臨床工学技士の岡山課長と、医療機器の管理・整備について説明しました。

地域医療連携室

三谷課長補佐から、MSWの役割についてミニ講義。



【学生ボランティアさんの感想】

MSWは地域連携の要として、退院支援など患者さんに寄り添った医療を提供するという、大切な役割を担っていることがよく分かりました。

老老介護での外来通院、入院生活を余儀なくされる患者さんやご家族に、多くの医療専門職が関わり支援していました。その現状を目の当たりにし、患者さんだけでなくご家族への支援は大切な事だと勉強になりました。

そして、職員間の連携や協力、温かく優しい気配りに患者さんやご家族が救われていると感じました。将来、病院で働く事ができるように勉強していきたいと思いました。

大学生ボランティアの受け入れは、今回で3回目です。当院でのボランティア経験が、今後の学びの一助になれば幸いです。

これからも、地域の皆様に親しまれ共に歩んでいながら、社会貢献へと繋げていきたいと考えています。